

石川県七尾美術館だより

平成23年4月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第65号(春号)



石川県七尾美術館収蔵品選展

～池田コレクション・池田文夫氏のまなざし～
～能登ゆかりの絵画・中世から現代まで～ より

国指定重要文化財 「前田利春画像」

桃山時代(16世紀)
縦78.8 横39.4(cm)
七尾市・長齢寺蔵

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



展覧会紹介

平成23年4月23日(土)～

6月26日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「石川県七尾美術館収蔵品選展」

4月23日(土)～5月22日(日)

〔会期中無休〕

当館が平成7年に開館して今年で17年。開館当初には356点であった所蔵品は、平成23年3月現在で約580点となりました。

これだけの作品を当館に所蔵することができたのは、これまで多くの方々から格別なご配慮を頂くことができたからこそであり、ご協力く

ださいました皆様には改めて御礼申し上げます。また、当館では地域に伝来する貴重な作品などを保全し、後世に伝えるという目的から様々な文化財や作品などを寄託という形でお預かりしており、こちらは現時点で計65点となります。本展では合計約640点の所蔵品と寄託品より、次の二テーマで様々な作品を紹介いたします。

◆第一展示室

「池田コレクション」

池田文夫氏のまなざし

●池田文夫氏と「池田コレクション」●

七尾市出身で岐阜県大垣市にて活躍した実業家の池田文夫氏(1907～87)。「池田コレクション」は中部地方きつての経済人であり、その一方で美術品を愛して止まなかった氏が生涯をかけて蒐集した美術品です。

氏は紡績技術者であった若い頃より作品蒐集に執心し、それは「貰ったボーナスが即座に作品となり、空袋を渡された」と夫人が嘆いた、とい



「池田文夫氏像」北村西望
昭和46年(1971)に制作された
氏の胸像。どっしりとした存在
感と風格を感じさせる。
(池田コレクション)

うエピソードにも表れています。

やがて和興紡績株式会社を設立し、中部石川県人会会長、日本経営者団体連盟常任理事など重職を歴任しますが、多忙を極める中でも蒐集活動は止むことなく継続され、数多くの作品を求めました。その範囲は日本・東洋美術のみならず西洋美術にも展開し、陶磁器や絵画、彫刻など幅広いジャンルに及びました。

昭和59年(1984)に出身地七尾に対する多大な貢献から七尾市名誉市民に推挙。晩年に至るまで幅広く活躍を続け、昭和62年に80歳で亡くなりました。

その翌年、氏の蒐集した作品を故郷へ寄附して欲しい、という七尾市からの要望により、計125点の作品がご遺族のご厚意によって七尾市に寄附されました。寄附された作品は池田文夫氏の名をとって「池田コレクション」と命名、その後建設された当館の所蔵品第一号となったのです。

●「池田コレクション」の内容●

「池田コレクション」はその後も池田氏の格別なご配慮により、平成7年(1995)の当館開

館時にその記念として計22点、そして開館10周年の同17年に計23点が追加で寄附され、コレクションの充実が図られていきました。

さらにこの度、「根来」など漆工品を中心とした作品34点を新たに寄附頂くこととなり(この新作品につきましては、後日改めて詳しく紹介いたします)、現在「池田コレクション」は合計204点を数えます。

コレクションの内容は、茶道美術品を中心とした日本美術の優品であり、池田文夫氏が活躍した岐阜県ゆかりの作品が多くの割合を占めています。また肉筆浮世絵や近現代の木彫、新しく加わった「根来」といった様々な作品などもあります。

特に桃山時代から江戸時代初期にかけて美濃国(岐阜県)で制作されたやきものとしてよく知られている、「美濃焼」の「志野」や「織部」などが充実しており、その器一点一点からは桃山文化の自由闊達な雰囲気を感じ取ることが出来ます。また、向附などの数物はほとんどが欠損なしの揃った状態であり、それぞれにきちんと用意された収納箱からは、池田文夫氏の作品に対する深い愛玩の想いが伝わってくるようです。

本テーマではこの「池田コレクション」より、名品30点を展示いたします。

これらの作品を通して池田文夫氏の優れた鑑識眼、そして作品に注いだ情熱を感じ取って頂ければ幸いです。



「織部木瓜形鉢」(池田コレクション)



「色絵龍桐文木瓜形平卓」
栗生屋源右衛門(池田コレクション)

◆第二・三展示室

「能登ゆかりの絵画・中世から現代まで」

「能登地方にゆかりのある美術工芸の展示および作品蒐集」は、当館開館以来の重要なテーマであり、それに基づき当館では能登に関連する古今の様々なジャンルの作品を、幅広く紹介してきました。

その多岐にわたる作品中、今回は絵画に焦点をあて、「中世・近世編」および「現代編」の二本立てで、古画や現代日本画、洋画など計46点を展示予定です。



町文「涅槃図」
長谷川藤原 穴水町・来迎寺蔵

●中世・近世編

「能登ゆかりの画家」といって真っ先に連想されるのは、やはり長谷川等伯（1539～1610）でしょう。能登七尾に生まれ京都で大活躍し、桃山時代を代表する画家の一人として著名な存在です。昨年は「長谷川等伯没後400年」として様々な関連行事が開催されたため、等伯の名を耳にした方も多かったことと思います。

今回は等伯が「信春」と名乗っていた若年期に制作された「愛宕権現図」と、等伯養祖父の無分（生没年不詳）や一族と考えられる長谷川等誓（？）（1636）などの「長谷川派」と呼ばれる周辺の画家



重文「刺繍阿弥陀三尊像」
七尾市・西念寺蔵

たちの作品計5点を展示。さらに「没後400年」にあわせ、等伯の代表作として評価の高い「松林図屏風」（東京国立博物館蔵）を、昨年デジタル技術によつて精巧に製作した「複製松林図屏風」なども、参考作品として展示いたします。

また、天正9年（1581）能登に入国した前田利家が、両親の菩提寺として建立した長齡寺（七尾市）に所蔵される「前田利春画像」（国指定重要文化財）など前田一族の肖像画や、能登の有力豪族で後に前田家の重臣となった長氏所縁の菩提寺である悦叟寺（七尾市）所蔵の「釈迦三尊像」をはじめとした仏画など、地元の由緒ある寺社や旧家に古くより伝来する作品なども展示します。

これらの貴重な作品に、特別展示として鎌倉時代刺繍仏の代表作として著名な西念寺（七尾市）所蔵の「刺繍阿弥陀三尊像」（国指定重要文化財）を加え、計16点を紹介いたします。

●現代編

戦後より現代にかけて、多くの能登ゆかりの画家たちが各所で活躍しています。一口に「能登ゆかり」といってもその関わりは千差万別で、能登出身・在住、能登が制作のテーマ、偶然に能登と関わるようになった方など様々です。

各作家は様々なテーマを以て制作活動を行っています。日本画では自然の生命力を表現した上田桂草（1904～85）や、能登の風景を生涯にわ

たつて描いた水道秋聖（1921～99）など、そして洋画では、色彩やポーズにこだわった人物画を追求した南政善（1908～76）、ヨーロッパの風景を通して悠久の歴史を描いた田辺栄次郎（1910～98）、抽象的表現に能登の色を塗りこめた勝本富士雄（1926～84）、写実的なタッチで不思議な抽象世界を展開した中村静男（1942～2011）など、個性に満ちています。30人の能登ゆかりの現代画家たちが織りなす、それぞれの独自世界をご堪能ください。



「ベルリンの壁断腸KZ」
堀場良夫



「バレリーナ」
八野田 博

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	500円	400円	300円
中学生以下無料、団体は20名以上です。	350円		

「第67回現代美術展 七尾展」

6月3日(土)～26日(日)

◆第1・2・3展示室

昨年、石川の工芸界には嬉しい知らせが相次ぎました。既にご存じのとおり、新たに2名の重要無形文化財保持者(人間国宝)と1名の日本芸術院会員が誕生したのです。二塚長生氏(金沢市在住)が「友禅」で、中野孝一氏(野々市町在住)が「蒔絵」で人間国宝に認定され、九谷焼作家の武腰敏昭氏(寺井町在住)が芸術院会員に就任されました。

毎年春に開催されている「現代美術展」では人間国宝、文化功労者、日本芸術院会員を筆頭とする作家たちの新作が一堂に展示されます。主に県内の作家や美術愛好家たちが出品する公募展で、戦後の混乱のなか昭和20年5月に始まり、今回で67回目を迎えます。その規模は県下最大規模を誇り、現在、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6部門で実施されています。所属会派を超えて出品されており、現在の石川県における美術の流れを展観する絶好の機会といえます。

今年は4月2日から石川県立美術館(洋画・工芸・写真)と金沢21世紀美術館(日本画・彫刻・書)の2会場で開催されます。展示作品は委嘱出品と一般公募から構成されており、委嘱出品の部では、出品委嘱作家(石川県美術文化協会会員)の作品が展示されます。一方、一般出品の部は、長年にわたり制作活動が続けている作家から新進気鋭の作家まで幅広い層からの応募があり、入選率5割という厳しい審査を経て選ばれた作品を展示するもので、展示の総点数は千点にもおよびます。

金沢展の後、県内を巡回しますが、巡回展は開催地ごとに地域の文化や産業をも反映した地域色豊かな展示内容となります。

七尾展は昭和21年6月の第2回展が開催された後は、当美術館が開館するまで中断されましたが、平成7年4月の開館を機に、毎年6月に開催し、今年で17回目を迎えます。「第67回現代美術展」出品作品の中から、石川県美術文化協会役員の作品、能登地区在住および出身委嘱作家作品、委嘱賞・最高賞・次賞受賞作品、能登地区(宝達志水町以北)在住者の作品を選抜、紹介します。身近な作家さんの作品も多数展示されますので、お楽しみに。

七尾展は巡回展の最後となりますので、お見逃しのないようご注意ください。



昨年の展示室の様子

会期中、第三展示室の一室では「池田コレクション」を展示します。観覧料は「現代美術展」と共通料金です。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	300円	
一般	500円	400円	

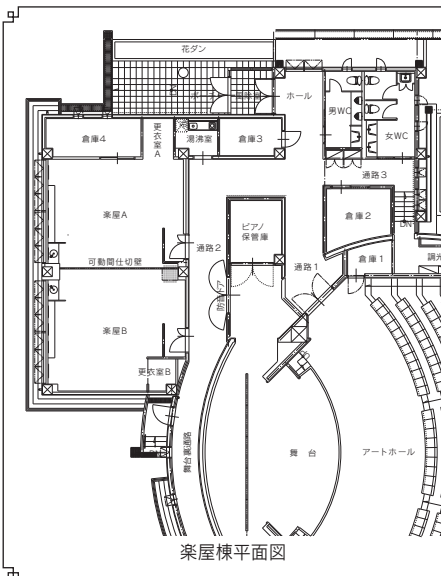
※中学生以下無料、団体は20名以上です。

収蔵庫・楽屋棟の増築工事について

収蔵庫部分は鉄骨構造の2階建て、楽屋棟部分は鉄筋コンクリート構造の平屋建てでの増築工事であり、収蔵庫は5月末、楽屋棟は6月末の竣工を目指し、現在予定どおりに工事は進んでいます。収蔵庫部分は、3月中には鉄骨の柱部分もできあがり、4月は外装工事、5月にかけて収蔵庫専用の特殊な内装の仕上げへと進んでいき、既存建物とは、2階収蔵庫前の前室を共有し、この新収蔵庫と連結します。竣工後は、建材等から出ている成分による化学変化により、美術品が変色・劣化しなくなる値になるまで、庫内の環境整備を行っていきます。

また楽屋棟部分は、基礎工事の後、4月には躯体工事、5月・6月にかけて外壁・内装工事へと進んでいき、最後に建物周辺の花壇・植栽植え込み工事をして、7月からアートホールと共にご利用頂けます。増築により楽屋・ピアノ保管庫等が増え、よりご利用頂きやすくなると思います。

今しばらく、皆様にはご不便・ご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

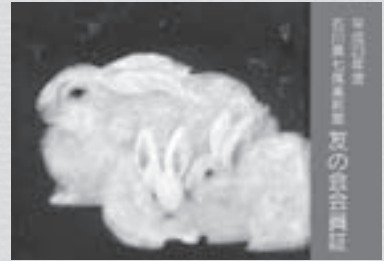


楽屋棟平面図

平成23年度 友の会事業カレンダー

- 2011 4月 ●美術館だより(第65号) 春号発行。
- 5月 ◎5月29日(日)「第12回友の会鑑賞の旅」を開催。
貸切バスで、三井寺と比叡山延暦寺へ国宝と世界遺産を訪ねる旅です。
- 6月 ◇友の会会員対象の「新収蔵庫&アートホール楽屋見学会」を開催。(※)
- 7月 ●美術館だより(第66号) 夏号発行。
- 8月 ○8月5日(金)「長谷川等伯展」開会式へ友の会会員をご招待!
式典終了後には展示会の鑑賞(無料)もできます。
◆8月14日(日)「長谷川等伯展」のギャラリートーク(列品解説)を開催。
友の会会員は先行予約で受け付けします。
- 10月 ●美術館だより(第67号) 秋号発行。
- 11月 ○11月11日(金)「2011イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」開会式へ友の会会員をご招待!
式典終了後には展示会の鑑賞(無料)もできます。
- 2012 1月 ●美術館だより(第68号) 冬号発行。
- 3月 ◇友の会会員対象の美術講座を開催予定。(※)

注:(※)印の催しにつきましては、会員本人と同伴者2名まで参加できます。



第12回 石川県七尾美術館友の会 「鑑賞の旅」のご案内

参加者大募集!

今回は「国宝と世界遺産を訪ねる旅」をテーマに滋賀県方面へ行きます。

まずは天台寺門宗の総本山である「三井寺」へ。今回は、一般公開されていない国宝の「観学院客殿」と「光浄院客殿」を特別拝観します。「観学院」は狩野光信による華麗な障壁画で部屋が飾られ、「光浄院」にも狩野派による障壁画が残されており、建築物としても書院の代表格として貴重です。次は天台宗総本山「比叡山延暦寺」へ。琵琶湖を一望できる「延暦寺会館」にて精進料理をいただいた後、根本中堂で団体法話を拝聴し、境内を散策します。

皆様からのお申込みをお待ちしております。

日程 5月29日(日)【日帰り・貸切バス利用】

出発 午前6時
帰着 午後8時頃

見学予定地 (滋賀県)

三井寺、比叡山延暦寺など

参加費 9,000円

※バス代・見学科・昼食代・旅行傷害保険料込。
友の会会員以外の方は右記参加費に1,000円加算となります。

定員 25名 (先着順、対象は原則として成人)

申込開始 4月5日(火)から。

申込方法 参加費をご持参のうえ、当館受付まで

まもなく完成!の前にちよつと見てみたい...

友の会会員様限定

新収蔵庫& アートホール楽屋見学会

1月から増築工事に入り、外から見ると足場や重機が見え、何やら物々しい様子。ご来館の皆様にも、大変ご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございません。

増築部分の完成予定は6月末ですが、日頃よりご支援をいただいております会員の皆様に、左記のとおり一般公開に先立ち、増築部分を公開します。

収蔵庫においては、作品が収まってしまふと芸員以外はほとんど入ることができない部屋です。また、アートホール楽屋は、明るく広々として利用者の皆様に喜んでいただける空間になります。

ご案内は、増築に設計段階から関わった当館間蔵施設係長がいたします。

日時 6月26日(日)午後3時より(約1時間)

見学場所 新収蔵庫・アートホール楽屋

参加費 無料

対象 当館友の会会員(同伴者2名まで参加可)

定員 20名(先着順)

申込開始 4月5日(火)から。

申込方法 電話にてお申し込みください。

七尾美術館 ☎0767(53)1500

どうぞお気軽にご参加下さい!

等伯コーナー

長谷川等伯ふると調査報告と得々情報！

昨年(2010年)は等伯没後400年という節目の年であることから、美術と歴史の専門家が合同で、主に能登を中心、「長谷川等伯ふると調査」(北國新聞社主催、石川県七尾美術館・七尾市協力)のと共栄信用金庫特別協賛)を行いました。「等伯の作品は、まだまだ能登周辺にあるはず」と思いながらも、一方では「新発見などというのは、そう頻繁にあるものではない」と話しながら始まった調査でしたが、貴重な新発見が続くこととなり、当の調査団員が一番驚いた次第です。

調査内容やその結果は、3月12日に開催された「長谷川等伯ふると調査 シンポジウム」(七尾サンライフプラザ)において報告されましたが、等伯作品の発見は元より、絵師の可能性が高いと考えられていた養父・宗清(道浄)の基準作品が発見されたことは、能登時代のみならず等伯研究において極めて大きな成果でした。

今まで「等伯ではない」と、注目されていなかった仏画などの中に、等伯との合作や養父や養祖父の作品が、まだまだある可能性が広がりました。等伯と長谷川派の研究は、また新たな展開を見せていくことでしょう。

得々情報

この夏、「長谷川等伯展」で等伯親子の新発見作品が鑑賞できる！

今年の等伯展は、改めて能登地方で活躍した「信春時代」を中心に展示しますが、特に等伯に多大な影響を与えたとみられる養父・宗清の仏画を含む新発見作品3点は必見です(会期等は、この「美術館だより」裏表紙をご覧ください)。調査作品から出品作品を一部紹介します。

《平成22年新発見・初公開作品》

◆「日蓮聖人画像」長谷川宗清(道浄)

天文23年(1554) 輪島市・成隆寺蔵

成隆寺の井前ご住職様から長谷川家菩提寺・長壽寺の高木ご住職様に、「等伯の絵とよく似た『日蓮聖人画像』があり、長谷川と書いてあるように見える」とのご連絡があり、高木ご住職様から七尾美術館に情報提供いただき、平成22年11月に調査が行われました。

そこで、「長谷川道浄四十八才筆」のサインと「宗清」印が捺された、等伯の養父・宗清の基準作となる真筆が確認されました。等伯16歳の時であり、宗清がプロの絵師として活躍し、等伯が指導を受けていたことが作品からうかがえました。

(作品画像は裏表紙に掲載)

◆「宝塔絵曼荼羅図」

長谷川宗清(道浄)・信春(等伯)

室町末期(16世紀) 氷見市・蓮乗寺蔵

以前より北春千代氏(石川県立歴史博物館学芸主幹)が養父筆の可能性を指摘されていた作品で、平成22年10月に調査が行われました。

画面右下に、養父の「宗清」印と「道浄筆」の墨書、左下に「信春」矩形印が確認され、養父が中心となつて描いた合作の可能性が高いということになりました。



◆「日蓮聖人画像」長谷川信春(等伯)

室町末期(16世紀) 珠洲市・本住寺蔵

七尾美術館が立正大学の中尾堯名誉教授から「等伯に非常に近い作品で、長谷川派の可能性もある」と、一度確認された方がいいですよ」とのご教示を受け、平成22年11月に調査が行われました。

肉眼では見えなかったのですが、画像は傷みがあるものの七尾市・實相寺の「日蓮聖人画像」に近似し、念のためにと調査団員の和田学氏(七尾市史編纂室次長)がペンライトを当てると、「信春」袋形印が浮き上がり、信春時代の等伯作品新発見となりました。

同寺に所蔵されている「鬼子母神十羅刹女像」「三千番神像」にも長谷川派の特徴が確認されており、作者の特定に期待したいと思っています。



この他にも、今回調査された長谷川信春(等伯)筆「法華経本尊曼荼羅図」永禄11年(1568)制作(京都市・妙傳寺蔵)や、長谷川信春(等伯)筆「日蓮聖人画像」室町末期(16世紀)制作(羽咋市・妙成寺蔵)などは、七尾初公開となる作品です。

また、「複製松林図屏風」(原本・長谷川等伯)も特別展示し、8月21日(日)には、特別講演会も開催しますので、ご期待ください。

平成二十二年度 新収蔵品紹介

平成二十二年度に新しく当美術館
所蔵となった作品を紹介します。

(3月現在)

①日本画「竹林七賢図屏風」

佐々木泉景
天保13年(1842)制作
※永井賢栄氏より寄附

②油彩画「こま」

飯田則子
平成9年(1997)制作
第12回北國女流展 最高賞

③油彩画「さると蟹」

飯田則子
平成18年(2006)制作
第60回二紀展

④油彩画「こんな事あったでしょう 追憶かごめ」

飯田則子
平成19年(2007)制作
第61回二紀展
※②④飯田則子氏より寄附

⑤油彩画「ラクリマ・クリステイ(白い陽)」

西房浩二
平成7年(1995)制作
第81回光風会展

⑥油彩画「ラクリマ・クリステイ(白い気配)」

西房浩二
平成8年(1996)制作
第82回光風会展

⑦油彩画「西風の吹く頃」

西房浩二
平成9年(1997)制作
第83回光風会展 会友賞

⑧油彩画「もうひとつの視線」

西房浩二
平成10年(1998)制作
第84回光風会展

⑨油彩画「2つの仮面」

西房浩二
平成11年(1999)制作
第31回日展

⑩油彩画「白い陽」

西房浩二
平成15年(2003)制作
第35回日展

⑪油彩画「夜想曲」

西房浩二
平成21年(2009)制作
第41回日展

※⑤⑪西房浩二氏より寄附

⑫漆工「瑞象馬」

番浦省吾
昭和13年(1938)頃制作

⑬漆工「漆衝立(実リ)」

番浦省吾
昭和29年(1954)制作
第6回京展

※⑫⑬濱口祥江氏より寄附

⑭写真「舞」

荒牧良一
平成21年(2009)制作
第83回国展 福原賞
※荒牧良一氏より寄附



②「こま」飯田則子



⑫「瑞象馬」番浦省吾



⑤「ラクリマ・クリステイ(白い陽)」西房浩二



⑭「舞」荒牧良一



①「竹林七賢図屏風」佐々木泉景

《 速 報 》

この度、当館の池田
コレクションに、新た
に「後奈良天皇宸翰」
や「根来」を中心とす
る漆工品など34点の
ご寄附をいただきました。詳しくは、次号で
紹介します。



重美「後奈良天皇宸翰」

平成23年度 市民ギャラリー＆アートホールの利用について

《 只今、利用申込受付中 》

七尾美術館では個展、グループ展、演奏会などの幅広い芸術活動の発表の場として市民ギャラリーとアートホールの貸室を行っています。現在楽屋増築工事を行っておりますので、アートホールの利用は7月からとなります。当館主催事業等で利用できない期間もありますので、お問い合わせください。

《 利用可能期間は当館ホームページでも確認できます 》

《 市民ギャラリー 》

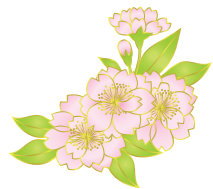
展示面積 (全5室 + 通路) 27 m² / 1 室
最大天井高 3.5 m

《 アートホール 》

ステージ幅 8.5 m
客席数 (固定 + 可動) 240 席
楽屋 2 室



これからの展覧会予定



◆第1・2展示室

「池田コレクション優品展」

～新寄附作品・用の美『根来』を中心に～

平成23年7月2日（土）～31日（日）

本展では、新たに「池田コレクション」に加わった作品34点をお披露目します。

「根来」は中世に繁栄した紀州（和歌山県）根来寺山内で制作された僧侶たちの日常品や仏具として使用された漆器が、その名の由来とされます。シンプルな造形と色彩は、美術愛好家たちに愛され続けています。“用の美”の体現ともいえる、根来の優品などをご覧ください。



「根来湯桶」室町時代
（池田コレクション）

◆第1・2・3展示室

「長谷川等伯展」

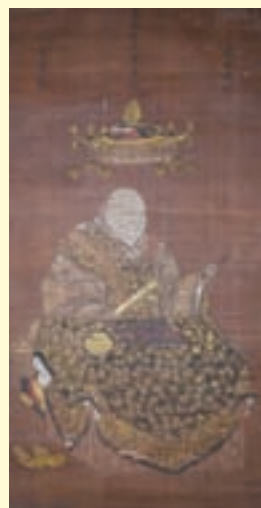
平成23年8月6日（土）～9月11日（日） 会期中無休

当館の重要なテーマである長谷川等伯（1539～1610）の特別展です。

昨年の「等伯没後400年」では様々な記念行事が開催され、その中で新しい作品や事実が判明、等伯にとっては実り多き年になりました。

そこで16回目の開催となる今回は、等伯の前半生である「信春時代」に改めて焦点をあてます。等伯が「信春」の名で活躍した20歳代の能登時代より、京都に拠点を移し、「等伯」と改名した50歳代頃までの作品を中心に、昨年初めて確認された養父宗清（道浄）の仏画など新発見作品を含む、約25点を紹介予定です。

「日蓮聖人画像」長谷川宗清（道浄）輪島市・成隆寺蔵



割引、プレゼントなど特典いろいろ！
ぜひ当館でもご利用ください。



飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分
車……金沢から能登有料道路利用約1時間15分
タクシー……JR七尾駅から約5分
徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バスまりん号
……JR七尾駅前「ミナ・クル」ビル裏バス停から西回り「七尾美術館」下車
なおコミュニティバスぐるっと7
……JR七尾駅前5番乗り場から西コース「小丸山台1丁目」下車

休館日のお知らせ

4月～6月

◆4月 4,11,18～22

◆5月 23～31

◆6月 1,2,6,13,20,27～30

◎次号・第66号（夏号）は7月1日発行予定です。